

ついに核兵器禁止条約採択

生存を脅かす核兵器・・・初めて禁止

原水禁世界大会へ蒲原グループから2名派遣

七月八日ある新聞に核兵器禁止条約が採択された瞬間の記事が掲載され読みました。感動し涙してしまいました。その記事は、

七月七日午前十時四六分、ニューヨーク国連本部第一会議室のスクリーンに賛成122、反対1、棄権1、の採決結果が示されました。

自らの生存をも脅かす核兵器を、人類が始めて禁止する法規範を手にした瞬間です。鳴り止まない拍手の中心を握る外交官、携帯で写真を撮る外交官、市民も歓声をあげ、喜びを分かち合いました。

と言う記事です。そしてそこには日本政府の姿は在りませんでした。国際会議には珍しいこの光景は、トランプ大統領・核保有国による恫喝、アフリカ各国に対する「出席するな」の脅しあり、そんな困難を乗り越えての開催であり、採決結果だったのです。



(写真)核兵器禁止条約の採択が決まった瞬間に立ち上がって拍手する各国政府代表ら=7日、ニューヨークの国連本部(池田晋撮影)

この会議の中で国連の中満泉軍縮担当上級代表は、「ヒバクシヤの言葉にならない困難と、たゆみない努力が今回の核軍縮条約に初

めて刻まれた」と発言しホワイト議長に日本被団協より296万3889人分のヒバクシヤ国際署名の目録が手渡され、署名が国際会議を大きく激励している事を実感。会場は大きな拍手に包まれました。

ニューヨーク行動には日本各地から55人が参加。国際会議と同じフロアに「市民社会」の席が設けられ、会議を見守る事ができたそうです。

唯一の被爆国である日本政府の姿はないものの日本共産党の志位委員長に発言がゆるされたとの事でした。今後の市民活動の提案は二〇二〇年NPT開催までに世界から億単位の「被爆者国際署名」を集めること、自国の政府に対し核兵器禁止条約の賛成をうながす、この事を確認し閉幕。

今年の原水禁長崎大会は、核兵器禁止条約の採択を受けて初めての大会、また、ホワイト議長が参加するのとおおいに盛り上がる事でしょう。報告 渡名喜 史子

被爆者の呼びかける国際署名にご協力をお願いします

代表派遣の募金とバザー

蒲原グループより二人の若者が長崎の世界大会に参加します。旅費や宿泊費・参加費などの財政負担を職員と友の会で支えようと、様々な財政活動を展開して来ました。

「バザー」のお知らせ

日時 7/24~7/26 午前中
場所 玄関ホール

堀出し物があるかも知れません。ぜひ足を運んでください。

募金も金額の多少にかかわらず宜しくお願いします。

かばら支部役員会

職員代表

三枝 穂波さん

蒲原診療所医事課の三枝穂波(さいぐさ ほなみ)と申します。



この度、原水爆禁止世界大会に参加させて頂くことになりました。私は、中学時代に学年全体で「はだしのゲン」の演劇を行なった際、その内容が現実起こったと信じられず、そのような悲惨なことが今後起こらないような世界になっ

友の会代表 大橋 元気(もとぎ)さん

この度、長崎に行くことになった大橋です。今まで話や本などで原爆のことを耳にしてきたことはありましたが、しかし、ちゃんとした目で被爆地を見たり、話を聞いたこととはなかつたので、この機会に身近なこととして体験したいと思いました。

原水爆世界大会 蒲原グループ代表

その内容が現実起こったと信じられず、そのような悲惨なことが今後起こらないような世界になっ



てほしいと感じました。今回の参加を通して、原水爆に対する考えや知識を深化できるよ

強してきます。皆さんのご協力よろしくお願ひします。

私の故郷 あじさい班で毎回話して交流

涙の戦争の話を語る 開拓地で自力で家を作る海軍から招集 そして戦死

5月24日 18名参加

神明南に住んでいる斉藤です。私が生まれる前、昭和12年に父母、兄達4人は福島の霊山から開拓地を求めて矢吹町に引っ越して来ました。その時は馬一頭を連れ夢と希望にあふれていました。

開拓地に着くなり父は自力で家を建て、山を切り開き畑を耕し始めました。ところが昭和15年に海軍から召集令状が届きました。翌年12月に太平洋戦争が始まりました。私は昭和16年の5月生まれです。父が海軍に入隊した当初は、横須賀基地から時々、家に帰ることもあったと聞きました。

ところが昭和18年の夏に家に戻った時「これで家族との別れになる」と言う気持ちを持て、帰郷した様でした。

母は19年1月16日に父の死の報告を受けた様です。その1週間後の1月24日に妹が生まれました。七人の家族が残されました。とても戦争を憎んだと思います。私はその頃何を食べて兄弟が生きてきたか分かりません。この兄弟の中で兄二人が口減らしのため

遠い親戚に預けられることになりました。ところが「たえ食べる物が無くとも生まれ育った家が良い」と言いつて帰つて来たそうです。また、この

兄達は十三歳位から農家の手間取りや箱根の埋め立て工事の出稼ぎに行つて、日銭を稼ぎ貧しい家の足しにしたそうです。これから先は家族全員が涙、涙の人生でした。

戦争によってどんなにか苦しい日々を過ごしたか幼い私には想像もつきません。ただ、戦争により長い間、苦しめられたことは事実で、

これからは絶対にも「絶対に戦争が

あつてはならない」と反対して行きたいと思つています。あじさい班 斉藤洋子



公害で苦しんでいる人が全国にたくさんいる！

6月7日(水) ニッショウホールで「第42回全国公害総

ファミリーケア綾瀬は、訪問介護の事業所です。在宅で暮らす高齢者や障がいを抱えた方々が、その人らしく安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう支援しています。

笑顔が一番のコミュニケーション ファミリーケア綾瀬 齋藤 潤子

訪問の特色は、直行・直帰ではなく、シフト制のチームケアで対応しています。そのためケアの悩みや不安も一人で抱えることなく、事業所に戻り相談、皆で共有し意識を統一していけるといったメリットがあります。事業所内は、いつも和やかな雰囲気です。

在宅において、ヘルパーが提供しているサービスには「身体介護」と「生活援助」の二種類があります。「身体介護」とは食事介助、口腔ケア、オムツ交換、排泄援助、入浴介助、歩行介助など直接利用者さんの身体に触れるケアのことです。



「生活援助」とは掃除、洗濯、調理、買い物など利用者さんの日常的動作の中で、できないところを援助するものです。利用者さんの中には、同居家族の洗濯物を一緒に出されたり、時に「主人は魚より肉料理の方が好きなのよねえ...」などと、ご本人というよりご家族のことを思い、ケアマネージャーさんのプランにもないことを要望される方もいます。

しかし、介護保険の対象は利用者さんのみになっており、さり気なくお断りする勇氣もヘルパーには必要です。限られた時間の中で、ヘルパーはコミュニケーションを取りつつ日々奮闘しています。これからも蒲原診療所、友の会員の皆さん、同協議会との連携を深め、地域の方々を支援していきたいと思つています。

行動・決起集会」が60団体、800人の参加で開催されました。「公害なくせ」の大きな盛り上がりを見せました。

演壇で訴える公害被害者のみなさんの話はその昔、一度は聞いたことのある公害ばかりでした。

例えば「水俣病」「食品公害」「基地被害」「大気汚染」「アスベスト被害」「原発事故被害」など上げたらきりが

ありません。

この公害で、今まだ苦しみ続ける人達が全国にいたことが会場に入り分かりました。そしてこの公害を無くすため、関心を持ちながら運動を続ける大切さを学んで帰って来ました。報告 嶺岸 宏

参加者の感想です

◎大工さんのご主人と、その後を継いだ息子さんが相次い

で肺ガンで亡くなったと、ご婦人から話がありました。辛い話でした。その原因がアスベストです。アスベストが肺ガンの原因になると言うことは、はつきりしていましたが、企業と国は放置しました。その責任は重大だと思ひます。今の国政が国民の声を無視したり冷遇するのと同じ姿勢を感じて帰ってきました。

大谷田 小川 務